特別支援教育（知的障がい） 1・3・4・5・6 学年
国語科学習指導案

日時 令和3年9月3日（金）
子ども

I 単元名

<授業の見どころ>

みんなで 話し合おう
(A 話すこと・聞くこと)

子どもたちが、ICTを活用しながら身に付けた見方・考え方を、活動の中で抽象化したり具体化したりすることで、より広がりのある一般化につなげます。

II 単元の指導構想

1 題材について

- 本校特別支援学級【知的障がい】に在籍する子どもは、1年生 名、3年生 名、4年生 名、5年生 名、6年生 名の 名である。国語科系統表（別紙①参照）に表す話すこと・聞くことにおける子どもたちの実態や、上記の表で示した障がい特性や生活及び学習での様子には個々に差異があるが、どの子どもも興味・関心のあることに対して主体的に学んだり、友達を大切に協働的に学んだりすることができる。**国語科系統表を基に、子どもたちに付けたい力を整理する【手立て1】**と、「具体物（道具、人物など）の特徴について話すこと。」「具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測すること。」「理由をつけて自分の考えを話すこと。」「2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりすること。」の4つに分けられる。一人一人が安心して、協働的に学ぶことができるよう、それぞれの学習のねらいや特性を考慮し、 名を2つのグループに分け学習を行う。

【※グループ編成については別紙②に示す通り】

それぞれのねらいが自己のねらいにせまる学習を行い、効果的に学習活動を集団化することで、協働的な学びの中で、学びに向かう姿勢を高めたり、より深い学びへと進んだりすることができる。と考える。

- 本題材は、大きく4つの学習活動で単元を構成しており、それぞれの学習において下表のような力を伸ばすことができると考える。

	単元の目標	学習活動
①	具体物（道具、人物など）の特徴について話す。	複数のものから教師が選択したものの特徴を考え、友達に伝える学習。
②	具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測する。	友達が話したものの特徴から、友達が話しているものを推測する学習。
③	理由をつけて自分の考えを話す。	自分が考えたことを友達に発表する学習。
④	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりする。	小集団で話し合いを行い、2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりする学習。

このように、子どもたち一人ひとりのねらいに即した学習活動をそれぞれの活動に関連をもたせながら展開し、グループ全体の共通の目的に向かった課題解決型の授業を設定することで、一人一人が主体的に学び、協働的な学びの中で、育成を目指す力を伸ばすことにつながる。

- 指導にあたっては、次の点について留意する。

1点目は、学習形態についてである。1時間の学習の中で、個別の学習の時間と集団での学習の時間を確保すること、極力教師の支援が少ない中で、一人一人の子どもたちが45分間集中して学び続けること、子ども同士が効果的に関わり合いながら学び合うことができるよう、主として上記の表①と③の力の伸長を目指す子どものグループと、主として②と④の力の伸長を目指す子どものグループを作り学習を行う。但し、④をねらいとする子どもの内、1名は、少ない情報量の中での学習が望ましいことを考慮し、別グループでの学習を行う。また、ねらいに応じて授業内においても個別の学習の時間、ペアでの学習の時間、小集団での学習の時間、全体での学習の時間をそれぞれ設定する。

2点目は、ICTの活用【手立て2】についてである。本単元では、①音声や動画を用いて一人で学ぶため、②メモや書き込みなどを通して、思考を整理したり友達と共有したりするため、③自己の考えを伝える際の視覚的な資料提示とするために、それぞれのねらいに合った形でICT機器を活用する。

3点目は、学習の一般化【手立て3】についてである。学習した内容を、他教科・領域の学習や実生活の場面に生かすことができるよう、学習内容を抽象化したり、他の場面とつなげて具体化したりを交互に繰り返すことで学習の一般化を図る学習場面を設定する。また、その際は、意図的に、課題解決の方法を子ども自身が選ぶようにしたり、考えたことをやってみたり、既習や未習の内容、実生活などつなぐ思考を教師が促したりすることで、より広い一般化を図ることができるようにしたい。

全校研究とのかかわり「えらぶ」「つかう」「つなぐ」

2 学びの文脈に基づいた単元構想図

単元の目標

- ① 具体物（道具、人物など）の特徴について話す。（A (1) ア）
- ② 具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測する。（A (1) エ）
- ③ 理由をつけて自分の考えを話す。（思A (1) イ）
- ④ 2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりする。（A (1) オ）

単元の評価規準（思考力・判断力・表現力等）にかかわるもののみ記載

①	②	③	④
具体物（道具、人物など）の特徴について話している。 （A (1) ア）	具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測している。 （A (1) エ）	理由をつけて自分の考えを話している。 （A (1) イ）	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりしている。 （A (1) オ）

復興教育との関連

- **いきる「③価値ある自分」**
自分の考えが友達と共通の目的を果たす一助となることで自己有用感を感じられるようにする。
- **かかわる「⑨仲間とのつながり」**
話したり聞いたり、話し合ったりすることを通して、友達と課題を解決する喜びに気付くことができるようにする。

他教科・領域等

生活単元学習 10月
「秋の遠足に行こう」
・集会の活動の話合いにおいて、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、活動の内容を決める。

特別活動 9月
「お月見集会」
・集会の活動の話合いにおいて、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりして、活動の内容を決める。

資質能力の高まり

教科の学習内容

4月
「話そう自分のこと・友達のこと」
自己紹介をしたり、友達に質問をしたりする。

5月
「どのように話すよいか」
場面に応じたセリフを考えたり、声の大きさや聞き方を考えたりする。

9月「みんなで話し合おう」
・ものの特徴を話したり、聞いたりして何について話しているのかを考える。
・理由をつけて自分の考えを話し、友達の考えと比較しながら、話し合いを通じてみんなで物事を決める。

7月「みんなで話し合おう」
・正しい話し方や聞き方について考える。
・理由をつけて自分の考えを話し、話し合いを通じて物事を決める。

2・3月
「楽しかったよ〇〇学級」
1年間の思い出や自分の成長について発表会をする。

同様の単元を繰り返しながら6年間でより高い系統の力を伸ばしていく。

他教科・領域等

生活単元学習 6月
「校内合宿をしよう」
・校外学習に必要な持ち物を話したり、その使い方を説明したりする。

生活単元学習 5月
「大好き仁王小学校」
・教師にインタビューをしてプロフィールを作成し、友達に発表をする。

見方・考え方を働かせるポイント

- **ものの特徴を捉える**
・単元の導入でお菓子を食ったり飲み物を飲んだりする体験をすることで、色や形、大きさや味などについて、実感を伴って特徴を捉えられるようにする。
- **相手を意識する視点に気付かせる**
・楽しく物事を決める際には、相手がどう捉えるかが大切であることを話し、理由をつけて話すことや、みんなの考えの共通点や相違点を整理することが有効であると実感できるようにする。

願い

- ・自分の話が伝わるようにしたい。
- ・友達や先生の話をもっとよく理解して、生活で困らないようにしたい。
- ・話し合いでみんなが楽しむことができることを決めたい。

教科の力

- 既習の形式に沿って話すことができる。
- ICT教材を用いることで、聞くことに集中することができる。
- 多くの子どもが短い文を構成して話をするすることができる。
- 目的意識をもちづらい子どもが 名いる。
- 聞いたことを理解したり、複数の考えをつなげたり、統合して考えたりすることが苦手。

子どもの実態

3 題材の指導計画及び評価の計画（全5時間）

グループ I

時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	◇評価規準 ＜評価方法＞	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	◇評価規準 ＜評価方法＞
1	○お菓子試食会をして、それぞれのお菓子の特徴【色・形・味など】を話す。 ○お菓子当てクイズをする。 お菓子の特徴を表す言葉	手立て3学習の一般化 ◆色や形でクイズを作ることができる。→【つなぐ】	◇態 特徴について関心をもっている。〈発言〉	○お菓子試食会をして、それぞれのお菓子の特徴【色・形・味など】を話す。 ○お菓子当てクイズをする。 お菓子の特徴を表す言葉	手立て3学習の一般化 ◆特徴が分かると何について話しているかがわかる→【つなぐ】	◇知技 特徴を表す語彙を話している。〈発言〉
2	○お菓子の色や形に着目して、教師が提示したお菓子の特徴を話す。 色や形を表す言葉	手立て2ICTの活用 ◆個別の学習のためのICT教材	◇知技 特徴を表す言葉を話している。〈発言・ワークシート〉	○教師が話したお菓子の特徴を基に、どのお菓子の話をしているのかを考える。 聞いた特徴を基に、何について話しているかを推測する。	手立て2ICTの活用 ◆個別の学習のためのICT教材	◇思判表② 特徴について落とさずに聞いている。〈発言・ワークシート〉
3	○味に注目して、教師が提示したお菓子の特徴を話す。 味を表す言葉	手立て3学習の一般化 ◆特徴を話すことで、相手に伝えたいことが伝わる体験→【えらぶ・つかう・つなぐ】	◇知技 特徴を表す言葉を話している。〈発言・ワークシート〉	○複数のお菓子の中から食べたいお菓子について話し、話合いで一つに決める。 話合いの進め方	手立て3学習の一般化 ◆理由を話すことで自己の考えのよさが伝わる体験→【えらぶ・つかう・つなぐ】	◇思判表② 友達の発言を受けて話をつないでいる。〈発言・ワークシート〉
4 本時	○教師が提示したお菓子の特徴を話す。 相手に伝わりやすいお菓子の特徴の話し方		◇思判表① どのような特徴を話すと伝わるか考えている。〈発言・ワークシート〉	○複数のお菓子の中から食べたいお菓子について理由をつけて話し、話合いで一つに決める。 理由をもって話すこと		◇思判表③ 理由をつけ、考えを話している。〈発言・ワークシート〉
5	○身の回りの物や乗り物など、身近なものの特徴を話す。 色や形、使い方などは、お菓子以外のものの特徴としても話すことができること	手立て3学習の一般化 ◆特徴を伝えることは、他の場面でも活用できる体験→【つなぐ】	◇思判表① どのような特徴を話すと伝わるか考えている。〈発言・ワークシート〉	○教師が提示する複数の遊びの中から、遊びたい遊びを理由をつけて話し、話合いで一つに決める。 理由をつけて話すことは、お菓子以外を決める際にも有効であること	手立て3学習の一般化 ◆理由を話すことは、他の場面でも活用できる体験→【つなぐ】	◇思判表③ 理由をつけ、考えを話している。〈発言・ワークシート〉
時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	◇評価規準 ＜評価方法＞			
1	○お菓子試食会をして、それぞれのお菓子の特徴【色・形・味など】を話す。 ○お菓子当てクイズをする。 お菓子の特徴を表す言葉			手立て3学習の一般化 ◆特徴が分かると何について話しているかがわかる→【つなぐ】	◇知技 特徴を表す語彙がわかる。〈発言〉	
2	○教師が話したお菓子の特徴を基に、どのお菓子の話をしているのかを考える。 聞いた特徴を基に、何について話しているかを推測する。			手立て2ICTの活用 ◆考えを比較・分類するための教材	◇思判表② 特徴について落とさずに聞いている。〈発言・ワークシート〉	
3	○食べたいお菓子を決める話合いにおいて、友達の考えを分類したり比較したりして整理し、食べたいお菓子を決める。 分類・比較をして考えを整理すること			手立て3学習の一般化 ◆比較・分類して整理をすることで、それぞれのよさを生かした話合いができる体験→【えらぶ・つかう・つなぐ】	◇思判表④ 考えを比較・分類して整理している。〈発言・ワークシート〉	
4 本時					◇思判表④ 友達の考えを比較・分類して整理し、自分の考えをもっている。〈発言・ワークシート〉	
5	○教師が提示する複数の遊びの中から、友達の考えを分類したり比較したりして整理し、遊びを決める。 分類・比較をして考えを整理することは、お菓子以外を決める際にも有効であること			手立て3学習の一般化 ◆比較・分類して整理をすることは、他の場面でも活用できる体験→【つなぐ】	◇思判表④ 友達の考えを比較・分類して整理し、自分の考えをもっている。〈発言・ワークシート〉	

題材の指導計画及び評価の計画（全5時間）

グループⅡ

時	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	◇評価規準 <評価方法>	○学習活動 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	◇評価規準 <評価方法>
1	○お菓子試食会をして、それぞれのお菓子の特徴【色・形・味など】を話す。 ○お菓子当てクイズをする。 お菓子の特徴を表す言葉	手立て3学習の一般化 ◆色や形でクイズを作ることができる。 →【つなぐ】	◇ 態 特徴について関心をもっている。〈発言〉	○お菓子試食会をして、それぞれのお菓子の特徴【色・形・味など】を話す。 ○お菓子当てクイズをする。 お菓子の特徴を表す言葉	手立て3学習の一般化 ◆特徴が分かると何について話しているかがわかる→【つなぐ】	◇ 知技 特徴を表す語彙がわかる。〈発言〉
2	○お菓子や飲み物の色や形や味に着目して、教師が提示したお菓子や飲み物の特徴を話す。 色や形や味を表す言葉	手立て2ICTの活用 ◆個別の学習のためのICT教材	◇ 知技 特徴を表す語彙がわかる。〈発言・ワークシート〉	○教師が話したお菓子の特徴を基に、どのお菓子の話をしているのかを考える。 聞いた特徴を基に、何について話しているかを推測する。	手立て2ICTの活用 ◆考えを比較・分類するための教材	◇ 思判表② 特徴について落とさずに聞くことができる。〈発言・ワークシート〉
3	○教師が話したお菓子や飲み物の特徴を基に、どのお菓子や飲み物の話をしているのかを考える。 聞いた特徴を基に、何について話しているかを推測する。	手立て3学習の一般化 ◆特徴を話すことで、相手に伝えたいことが伝わる体験→【えらぶ・つかう・つなぐ】	◇ 思判表② 特徴について落とさずに聞くことができる。〈発言・ワークシート〉	○食べたいお菓子を決める話合いにおいて、友達の考えを分類したり比較したりして整理し、食べたいお菓子を決める。 分類・比較をして考えを整理すること	手立て3学習の一般化 ◆比較・分類して整理することで、それぞれのよさを生かした話合いができる体験 →【えらぶ・つかう・つなぐ】	◇ 思判表④ 考えを比較・分類して整理することができる。〈発言・ワークシート〉
4			◇ 思判表② 特徴について落とさずに聞くことができる。〈発言・ワークシート〉			◇ 思判表④ 友達の考えを比較・分類して整理し、自分の考えをもつことができる。〈発言・ワークシート〉
5	○身の回りの物や乗り物など、身近なものの特徴について聞き、何について話しているのかを考える。 色や形、使い道などは、お菓子以外のものの特徴としても話すことができること	手立て3学習の一般化 ◆特徴を伝えることは、他の場面でも活用できる体験→【つなぐ】	◇ 思判表① どのような特徴を話すと伝わるか考えることができる。〈発言・ワークシート〉	○教師が提示する複数の遊びの中から、友達の考えを分類したり比較したりして整理し、遊びを決める。 分類・比較をして考えを整理することは、お菓子以外を決める際にも有効であること	手立て3学習の一般化 ◆比較・分類して整理することことは、他の場面でも活用できる体験→【つなぐ】	◇ 思判表④ 友達の考えを比較・分類して整理し、自分の考えをもつことができる。〈発言・ワークシート〉

Ⅲ 本時の指導計画

グループI 指導者

1 目標及び評価規準（評価方法）

目標	具体物（道具、人物など）の特徴について話すことができる。	理由をつけて自分の考えを話すことができる。	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりすることができる。
評価規準	教師が提示したお菓子の特徴を考え、友達に伝えている。 【発言・ワークシート】	話合いの際に、適切な理由をつけて、自分が食べたいお菓子を話している。 【発言・ワークシート】	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりしている。 【発言・ワークシート】

2 展開

段階	・学習活動（学習形態）	○指導上の留意点	【研究に関わる手立て】	評評価の場面
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと前時からのつながりについて確かめる。（全体での学習） 			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 学習課題 つたえあう力をつかって、パーティーのおかしをきめよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時と同様に、「教師が候補として提示するお菓子の特徴を考え、伝える学習」「友達から聞いたお菓子の特徴から、候補となるお菓子を推測し、食べたいお菓子を発表する学習」「食べたいお菓子の意見を基に、話合いで食べるお菓子を決める学習」を行うことを確認する。 			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○特徴を表す既習の語彙を挙げることで、特徴を表す言葉を想起できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由がある場合とない場合を比較することで、理由を話すことのよさを想起できるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示したお菓子の特徴を教師と共に考える。（個別の学習） ○お菓子の特徴を表す言葉カードを参照しながら、自分のお菓子の特徴を表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子クイズに答える。（個別の学習） ○音声教材を用いて、ロイロノートを用いて個別に学習を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【手立て2：ICTの活用】 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習で考えたお菓子の特徴を友達に発表する。【評】（全体での学習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達からお菓子の特徴を聞き、本時の候補となるお菓子を推測する。（全体での学習） 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子クイズに答える。（個別の学習） ○動画の教材を用いて、動画上の教師の指示に従って小集団で学習を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が食べたいお菓子を選び、理由を考えて話す。（小集団での学習） ○選んだお菓子のよさだけでなく、他のお菓子のよくない点についても聞き、それぞれのお菓子のよさと欠点を挙げ、比較の思考がしやすいようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> 【手立て2：ICTの活用】 ○早く終わった場合は、お菓子の特徴について、自分が考えた特徴と教師が考えた特徴を比較する学習を友達と共に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを行い、食べたいお菓子を決める。【評】 ○ 兄が比較したそれぞれのお菓子のよさと欠点を紙に表して示すことで、目的にふさわしいお菓子を決められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを行い友達の考えから教師と共に理由の共通点と相違点を比較し、食べたいお菓子を決める。【評】 （小集団での学習） ○特に共通点に注目し、極力多くの考えの合意形成を図るよう、助言する。 	
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・話合いで決まったお菓子を発表する。（全体での学習） ○個々の力によってお菓子が決まったことを価値付け、学習への充実感をもつことができるようにする。 ・学習の振り返りを行う。（全体での学習）【手立て3：学習の一般化】 ○学習したことを抽象化したり、他の場面での活用を想起させ、その場面での活用方法を問いかけ、具体化したりすることで、学んだことの一般化を図る。 			

本時の指導計画

グループⅡ

1 目標及び評価規準

目標	具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測することができる。	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりすることができる。
評価規準	具体物や抽象物の特徴を聞き、そのものを推測している。 【発言・ワークシート】	2～4人の集団で、個々の考えの共通点や相違点を比較したり、分類したりしている。【発言・ワークシート】

2 展開

段階	・学習活動 (学習形態)	○指導上の留意点	【研究に関わる手立て】	評評価の場面
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてと前時からのつながりについて確かめる。(全体での学習) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題 つたえあう ちから を つかって、のみものを きめよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時と同様に、「教師が候補として提示する飲み物の特徴を考え、伝える学習」「友達から聞いた飲み物の特徴から、候補となる飲み物を推測し、食べたい飲み物を発表する学習」「飲みたい飲み物の意見を基に、話し合いで飲み物を決める学習」を行うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由がある場合とない場合を比較することで、理由を話すことのよさを想起できるようにする。 ○前時の考えの比較提示することで比較の仕方を想起できるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ○特徴を表す既習の語彙を挙げることで、特徴を表す言葉を想起できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理由がある場合とない場合を比較することで、理由を話すことのよさを想起できるようにする。 ○前時の考えの比較提示することで比較の仕方を想起できるようにする。 		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示した飲み物の特徴を考える。(個別の学習) ○動画の教材を用いて、動画上の教師の指示に従って学習を進めることができるようにする。【手立て2：ICTの活用】 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較の仕方や話し合いの進め方について、教師と共に確かめる。(小集団での学習) ○ワークシートを使って飲み物の特徴や選んだ理由について書き出し、共通点と相違点に注目できるようにする。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の学習で考えた飲み物の特徴を友達に発表する。(全体での学習) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達から飲み物の特徴を聞き、本時の候補となる飲み物を推測する。(全体での学習) 		
開	<ul style="list-style-type: none"> ・ものの特徴を聞き、何の話をしているかを考える学習を行う。評 (個別の学習) ○動画の教材を用いて、動画上の教師の指示に従って学習を進めることができるようにする。【手立て2：ICTの活用】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が飲みたい飲み物を選び、理由を考える。(個別の学習) ○ロイロノートを使って写真とメモを書き、自分の考えと理由が明確になるようにする。【手立て2：ICTの活用】 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを行い、飲み物を決める。評 (小集団での学習) ○ロイロノートを使って話すことで考えと理由が明確になるようにする。【手立て2：ICTの活用】 ・話し合いを行い友達の考えを書き出し、理由の共通点と相違点を比較し、飲みたい飲み物を決める。評 (小集団での学習) 		
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで決まった飲み物を発表する。(全体での学習) ○個々の力によって飲み物が決まったことを価値付け、学習への充実感をもつことができるようにする。 ・学習の振り返りを行う。(全体での学習)【手立て3：学習の一般化】 ○学習したことを抽象化したり、他の場面での活用を想起させ、その場面での活用方法を問いかけ、具体化したりすることで、学んだことの一般化を図る。 			

【話すこと・聞くこと 系統表】 太枠は本時に関わる目標

項目	目標													
技能	正しく母音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく清音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく濁音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく半濁音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく促音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく長音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく拗音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	正しく拗長音を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	音の省略（トウモロコシなど）なく単語を発音する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指示に合わせて声の大きさを変える	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	声の大きさを5段階ほどに分けて発声する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指示に合わせて声の調子を上げ下げする	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指示に合わせて、字と字の間を伸ばしたり、短く切ったりして発声する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	指示に合わせて強弱をつけて発声する	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ア	自分の名前や好きなものを話す。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日常生活の中の挨拶やお礼、謝罪などを話す。		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日常生活における、交友や物の貸し借り、トラブルの報告など際の会話の仕方が分かる。				0		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学校や家庭などの身近な物や場所、人について説明する。				0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
具体物（道具、人物など）の特徴について話す。								0	0	0	0	0	0	0
抽象物（仕事、行動など）の特徴について話す。								0	0	0	0	0	0	0
話合いの議題を考える。（困っていること、相談したいこと、やってみたことなど）				0	0	0	0	0	0				0	0
日常生活の中から、自分が話したい話題を考える。							0	0	0			0		
アンケートやインタビューなどで情報を収集する。														
グラフや表などを使って、調べたことを発表する。														
イ	電話を取った際の適切な応答の仕方です。			0		0	0	0			0		0	
	電話をかける際の適切な話し方で話す。			0		0	0	0			0		0	
	絵を見て、描いてあるものを話す。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理由をつけて自分の考えを話す。			0	0		0	0	0			0	0	0
	自分が好きな本や学習について、その良さが伝わるように説明する。				0		0	0	0			0		
	目的に応じて話す事柄の順序を考えて話す。													
	5W1Hから必要なものを明確にして話す。													
話の中心が明確になるように構成を考えて話す。														
自分とは別な立場の視点に立って考えを話す。														
ウ	相手との距離や人数にあった声の大きさを話す。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	絵や写真、図を使って話す。		0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0
	身振りを入れて話す。			0	0	0	0	0	0			0	0	0
	声の大きさや速さを工夫し（部分によって変えて）話す。				0		0	0	0			0		
	言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫して話す。									0			0	

	子ども	生活から見た、学習にかかわる子どもの様子や認知特性
グループ①		<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことが苦手。 ・疲れやすく集中の持続が難しい。 ・自分の主張を短い言葉で話すことができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・言語での指示理解が苦手。 ・自信をもつまでは、自分の考えの表出が難しい。 ・文字を書くことに時間がかかる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習や活動内容の理解に時間を要する。 ・自分の主張を表出しづらい。友達の考えでよいと捉えることが多い。 ・一度覚えたことを繰り返し行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを言語化することが苦手。言葉となるまでに時間がかかる。 ・自分の考えや主張をもつことができる。 ・進んで主張を話すことできる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・理由をつけて考えを話すことができる。 ・考えの整理が苦手で、主張内容が散漫になりやすい。 ・聴覚優位だが、一度間違った理解をすると、修正がしづらい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを言語化することが苦手。言葉となるまでに時間がかかる。 ・自分の考えや主張をもつことができる。 ・進んで主張を話すことできる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことや読むこと、理解に時間がかかる。 ・話すことが好きでたくさん話す、構成は整っていないことが多い。
グループ②		<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない ・言語の指示理解が苦手 ・文字を書くために時間がかかる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が少ない ・モデリングが有効 ・意味の通った主張や話にならない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・理由をつけて考えを話すことができる。 ・簡単な情報を正確に聞き取ることができる。 ・自分の考えと他者の考えを比較して考えることが苦手。
		<ul style="list-style-type: none"> ・理由をつけて考えを話すことができる。 ・集中を持続して考えたり、相手の話を受けて自分の考えを話したりすることが苦手。 ・興味関心によって意欲が大きく変化する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・時系列で話すことや理由を明確に話すことが苦手。 ・簡単な内容の話を正確に聞き取ることができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・短文で話すことが多い。長い文で話す際は、構成や文脈は整っていないことが多い。 ・定型文的に謝る癖がある。 ・集中の持続が難しい。